

準備書についての技術委員会意見等集約表（第2回審議分まで）（案）

資料2

- 注) 「意見」 : 技術委員会から知事に対して述べる環境保全の見地からの意見（知事意見の作成に反映）
 「指摘事項」 : 評価書作成に当たり記載内容等について整備を求める指摘（環境部長指摘事項の作成に反映）
 「記録」 : 意見及び指摘事項とはしないが、記録に残し事業者に伝えるもの

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等（案）	事業者の説明、見解等要旨
1	全般	塩田委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての環境項目で、評価結果の文言が「環境への影響の緩和に適合する」などの同じ記載になっているが、環境項目はそれぞれに特徴があるので、メリハリのある環境影響評価という観点で、分かり易く表現した方がよい。 	指摘事項	【番号1, 7, 14, 26, 31, 39の趣旨を集約】	<p>評価書においては、調査、予測結果の丁寧な記載、図表の活用、環境要素ごとの特徴を踏まえた評価結果の表現など、より内容を分かりやすく記載すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果における「環境保全に関する目標との整合性」については、基準との比較が基本になりますので比較的同じような表現になりますが、「環境への影響の緩和に係る評価」については、事業者の環境保全措置等によって環境への影響を緩和、最小化しようとする努力を示す部分ですので、評価書において丁寧な説明に努めます。
2	全般	佐藤委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料2のNo.4で、一般的に環境保全目標は「現状より悪化させない」というネガティブな言葉が多いが、「現状を改善させる」という表現にできないのか。 	指摘事項	【番号2, 10の趣旨を集約】	<p>対象事業が既存施設の更新であることも踏まえ、環境負荷のさらなる低減を図るよう努めること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 御意見ということで承らせていただきます。
3	全般	塩田委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 参考及び引用している資料について、事業者の立場で拡大解釈している場合があるので、専門家への相談や関係する学術論文を確実に調査して、根拠を明確にすることが必要である。また出来るだけオリジナルの資料を利用し、引用ページもしっかり記載するなど、環境省のいう「メリハリのある環境影響評価」の実施のため、しっかりと対応願いたい。 <p>【亀山委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書への意見に対する事業者見解として、出典や参考文献の名称をしっかりと記載する旨の回答が記載されており、引用、参考文献については引用部分等を明示するよう心がけてほしい。 	指摘事項		<p>予測・評価の根拠を明確にする意味で、引用文献、参考文献はオリジナルの文献を用いるとともに、引用部分を明示するよう努めること。</p>	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引用部分を含めて、できる限り明示します。（評価書対応）

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
4	大気質	鈴木委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・煙突排ガスの1時間値の予測で、高濃度が出現する可能性がある条件として「大気安定度不安定時」とあるが、大気が不安定になるときに高濃度になる理由を教えてください。 ・高濃度が出現する条件として「接地逆転層崩壊時」とあるが、準備書4-1-38ページの逆転層の区分で下層逆転が接地逆転層と同じだとすると、下層逆転の崩壊時を対象としているのはなぜか。煙突が60mなので、80m～90mくらいで下層逆転が起こっているときにかなり濃度が高くなると思われる。 ・高濃度が出現する条件のうち「上層逆転層発生時」が、準備書4-1-38ページの下層逆転に相当するということか。 ・準備書4-1-109ページに、高濃度が出現しやすい条件として、不安定時、逆転層発生時、ダウンドラフト時とある。逆転層発生時とダウンドラフト時はいいが、不安定時には上空にどんどん汚染物質が流されていくので高濃度にはならないのではないか。 	記録	審議のために必要な計画内容の確認等		<ul style="list-style-type: none"> ・大気安定度不安定時の予測については逆転層がない条件での予測であり、大気安定度がAの不安定時の条件で逆転層がないケースを設定しました。 ・準備書4-1-38ページの上層気象の調査では、100mの上下で上層逆転、下層逆転という判定をしていますが、影響の予測については、逆転層が有効煙突高さに達した時に、最も高い着地濃度が出る条件を複数パターンでシミュレーションしています。 ・有効煙突高さが59m+αという形になり、下層逆転か上層逆転の100mより少し上くらいのところが、一番高い濃度が出る逆転層の発生時になります。 ・大気安定度がAの不安定時には拡散幅が広くなり、最大着地濃度が高くなる場合があり、厚生省のごみ焼却施設の環境影響評価マニュアル等でも同様な条件が示されています。 口頭では難しいので、別途資料を用意して説明させていただきます。 【事後回答】 ・大気安定度ごとの煙の拡散幅(イメージ)を別途資料(第2回審議 資料1-1)で提示します。
5	大気質	鈴木委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-1-37ページに冬期の鉛直気温の調査結果があるが、その間の諏訪湖の結氷状況を教えてください。 	記録	審議のために必要な計画内容の確認等		<ul style="list-style-type: none"> ・手元に資料がないので、別途説明させていただきます。 【事後回答】 ・气象台、御神渡り神事を行う八剣神社のヒアリング結果を別途資料(第2回審議 資料1-2)で提示します。
6	大気質	鈴木委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-1-33ページの2月16日の天気概況に「西高東低の冬型の気圧配置」とあるが、移動性の高気圧がまさにかかるところなので、そのようには表現しないと思われる。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・評価書での表現を修正します。

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
7	大気質	鈴木委員	<p>【第1回審議】</p> <p>・準備書4-1-37ページの冬季の鉛直気温の調査結果は、異なる気象条件を平均して示しているため逆転がほとんど起こらなくなるが、完全に高気圧に覆われている2月17日を図示すると、明らかに逆転が起こっていると思われる。</p> <p>また、準備書4-1-37ページの上層の鉛直気温のグラフでは、少なくとも24時～朝7時30分までは明らかに逆転が起こっているが、準備書4-1-55ページの地上気温のグラフでは事業予定地の下層の湖面まで逆転が起こっていない。平均化しない特徴的な日の結果を併せて示せば、気温の逆転は起こっていないという表現にはならないと思われる。</p>	指摘事項		(番号1に趣旨を集約)	<p>・個別の日のデータを整理して、お示しさせていただきます。</p> <p>【事後回答】</p> <p>・別途資料(第2回審議 資料1-3)で提示します。評価書での表現の仕方、グラフの整理の仕方については、委員のご指摘を踏まえ、修正していきたいと思えます。</p>
8	大気質	鈴木委員	<p>【第2回審議】</p> <p>・資料1-3では地上気象のみ日別に整理しているが、上層気象の日別のデータについてはどこかに記載されているか。</p>	記録	審議のために必要な計画内容の確認等		<p>・上層気象は、資料編1-483、484ページに記載されていますので、御確認をお願いします。</p>
9	大気質	片谷委員	<p>【第2回審議】</p> <p>・準備書4-1-58ページの焼却施設の稼働に伴う大気質の影響に係る予測方法で、カドミウム、鉛、水銀については類似施設における測定結果による発生源データを基に予測したとのだが、その結果はどこに記載されているか。</p>	記録	記述内容に関する修正等		<p>・準備書4-1-58ページの記載は誤りで、準備書4-1-109ページに記載のとおり、カドミウム、鉛、水銀については予測範囲における現況環境濃度及び計画施設の発生源データを基に、定性的な予測をおこなったということで評価書では統一させていただきます。</p>
10	大気質	片谷委員	<p>【第2回審議】</p> <p>・準備書4-1-95ページの予測結果では、二酸化窒素の年平均寄与濃度はバックグラウンド濃度に対してかなり高い状況であるが、保全目標は環境基準なので十分クリアしているという評価である。準備書4-1-97ページには、環境負荷のさらなる低減を図ることが記載されているが、発注条件で性能が改良された新しい建設機械を使用する建設業者を選定する努力など、最大限の低減を図る姿勢について評価書には記載していただきたい。</p>	指摘事項		(番号2に趣旨を集約)	<p>・委員の御意見を十分反映し、業者選定等においても最新型の建設機械使用を明記するなどいたします。</p>

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
11	大気質	片谷委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-1-139ページに予測地点の最大着地濃度と影響割合の一覧表があるが、二酸化硫黄のデータを代表して記載した理由を教えてください。 ・二酸化硫黄の現況濃度は環境基準よりはるかに低く、全く問題のないレベルである。二酸化窒素の影響割合は1.4%だが、現況濃度は環境基準に近い数値であり、表には二酸化窒素を代表して記載すべきではないか。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・二酸化硫黄の影響割合が4.8%と最も高いため、表には代表して記載しました。 【事後回答】 ・影響割合が最も高い二酸化硫黄に加え、環境基準値に近い二酸化窒素について、最大着地濃度と影響割合の一覧表を作成します。(評価書対応)
12	大気質	片谷委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-1-151ページのPM2.5の予測に当たり、発生源寄与割合の文献値として東京都環境科学研究所の数値を使用しており、廃棄物焼却については0%と記載されているが、小数点以下に数値がある筈である。廃棄物焼却からPM2.5が全く出ないとの誤解を招くおそれがあるため、確認して記載願いたい。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・追加ヒアリングを行って対応します。 【事後回答】 ・ヒアリングの結果入手した最新データに差し替えます(自動車排出ガス14.6%、廃棄物焼却3.2%)。別途資料(第3回審議 資料1-3)参照。(評価書対応)
13	騒音	塩田委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2のNo.9からNo.10に、事業者の見解として「本事業における影響は軽微である」と記載しているが、住民への説明は誤解がないようにもっと丁寧に文章化した方がいいのではないか。 ・準備書では「軽微」と記載していないので、資料2の事業者の見解は準備書の文言と整合性をとって説明した方がよい。 	指摘事項		<p>環境保全の見地から提出された意見に対しては、評価結果が的確に伝わるよう、準備書の表現との整合を図り、丁寧に事業者の見解を示すこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書5-7ページに評価結果として、具体的な数字を記載することにより、軽微であることを具体的に示しています。 ・事業者の見解については、準備書の表現を使って回答するよう評価書で対応します。
14	悪臭	片谷委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-5-16ページで、発生源条件は確定していないが現段階で影響が大きくなると想定される条件を設定したとあるが、具体的にはどういう意味か。 ・類似事例を参考にしたのであれば事例をきちんと引用し、いくつかの事例のうち最大値を使ったのであれば、それも含めて説明を追加してほしい。 	指摘事項		(番号1に趣旨を集約)	<ul style="list-style-type: none"> ・予測条件として、既存事例等を参考に想定される規模での最大値ということで設定しました。 ・御指摘を踏まえ、評価書において修正させていただきます。
15	悪臭	片谷委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-5-19ページで類似事例として挙げられる9施設について、悪臭防止対策が共通していることの説明はあるが、施設の方式や規模などの情報も追加してほしい。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・類似施設であることが分かりやすくなるよう、評価書において追記させていただきます。 【事後回答】 ・一般廃棄物処理施設実態調査結果(平成23年、環境省)に基づき、処理方式と施設規模を追記します。(評価書対応)

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
16	水質	花里委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-6-2ページの水質調査地点において、St. 2は天竜川に流れ込んでいるのか。 ・湖では、例えばダイオキシン等の有害物質が湖底に堆積し、食物連鎖を関して大きな問題になることがある。そのため、特に諏訪湖に流れ込む河川は気をつけなくてはいけないが、建設予定地に降った雨は、諏訪湖にかなり流れ込むのか。 ・施設とその周辺において雨が降った際に、ダイオキシンや重金属、環境ホルモン作用を持っているような物質が検出されると問題に場合がある。今日の説明では、かなり負荷を低減しているのよいかと思うが、こういう問題が起きる可能性があるということを認識していただきたい。 	記録	環境影響評価に関する提言等		<ul style="list-style-type: none"> ・St. 2については、諏訪湖ではなく、天竜川に流れ込む水路になります。 ・建設予定地に降った雨水の流末は天竜川になります。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、焼却灰が周辺に散逸しないように留意する旨を、事業計画に追記します。(評価書対応)
17	土壌汚染	小澤委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-7-6ページに土壌のダイオキシン類の調査結果が示されているが、現況で清掃工場がある区域(St. 1～St. 3)の数値について、環境基準あるいは調査指標値に比べると低い値であり問題はないが、全国的な環境調査の中では高い濃度になるので、やや高い数値という認識で、同族体、同位体を含めたデータを資料として提示した方がよい。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・今は手元にありませんが、分析結果については次回お示しします。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダイオキシン類の同族体パターンを参考として、由来分析を行った結果、改修前の煙突排ガスと過去に使用されたPCP(農薬)の複合要因ではないかと想定されます。ダイオキシン類の同族体パターンは別途資料(第2回審議 資料1-4)で提示します。
18	土壌汚染	小澤委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1-4において、ダイオキシン類の同族体パターンは、焼却関係の発生源においても様々なパターンがあり由来の特定は難しいが、農薬(PCP)を要因としたのは現場における使用履歴から想定したのか。 ・St. 1～St. 3の地点は、ダイオキシン同族体パターンがほぼ同じことから、同じ起源であることがいえると思う。準備書4-7-6ページの調査結果にある、St. 1～St. 3以外の地点についても、比較のため同族体パターンのデータを添付していただきたい。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・使用履歴の確認はしておらず、パターンのみから要因を推定しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・データはありますので、可能であれば添付します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・St. 4～St. 8のデータを追加します。別途資料(第3回審議 資料1-2)参照。(評価書対応)

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
19	地形・地質	梅崎委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-8-14ページに、地すべりについては現在十分に安定しており、施設からの雨水を適切に放流するので、この事業により地すべり等を起こすことはない」と予測結果を記載してあるが、安定していても降雨や地下水等により動くので、評価が不十分ではないか。 また、土石流についても、準備書4-8-7ページ 図4-8-4(2)では、当該施設よりも上部の斜面と沢地形との関連が分かりにくく、特に数年前に土石流災害等もあったので、当該地域における土石流の可能性について記載願いたい。 危険がある場所に施設を計画しているかどうかも影響評価の大事な部分なので、評価した方がよい。 	意見	【番号 19, 21, 22, 23, 24を集約】	現時点で想定される掘削場所、深度など造成計画を具体的に示すとともに、計画地における地すべりの形態、土地の安定性について十分にデータを集め、建物の配置等に適切に反映すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書では当事業による影響という観点で評価していますが、周辺環境をどうとらえるかという観点も、評価書では追加する形で対応します。
20	地形・地質	梅崎委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨水に対しては対策が取られていることだが、施設で使用する水は地下水を使用するのか、上水を使用するのか。 ・雨水に加えて、上水の排出についても記載をしたかどうか。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・使用する水は、地下水ではなくすべて上水を使用する予定です。 ・評価書での対応を検討します。

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
21	地形・地質	富樫委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-8-4ページの地質構成表で、地層名の崖錐2について記事には地すべり土塊と考えられると記載してあるが、地すべり土塊と崖錐は成因や物性的に全く違うものであり、地すべり土塊であれば崩積土として区分すべきものである。 ・準備書4-8-7ページの地質断面図で、推定すべり面が3本あるが、基本的に推定すべり面の上にある地質体は崩積土とすべきであり、風化塩嶺累層は地すべり土塊、あるいは崩積土として区分すべきである。また、一番上の推定すべり面について、すべり面であれば、地層境界がずれていなければおかしい。以上のことが論理的にきちんとなるように、地質構成表と地質断面図は大幅な修正が必要ではないか。 ・地質断面図に関しては、計画区域がどのあたりに入るのか合わせて示してもらいたい。 	意見		(番号19に集約)	<ul style="list-style-type: none"> ・地質の調査については、別途実施された調査結果を引用していますので、この調査を行った機関に確認し、必要であれば修正する形で対応します。 【事後回答】 ・ご指摘を踏まえ、評価書にて修正します。また「地質構成と地すべりについての補足説明」を、別途資料(第2回審議 資料1-5)として提示します。 【事後回答】 ・地質構成表と地質断面図を評価書にて修正します。また「地質構成と地すべりについての補足説明」を、別途資料(第2回審議 資料1-5)として提示します。 【事後回答】 ・評価書において、地質断面図に計画区域の位置(第2回審議 資料1-5参照)を示します。
22	地形・地質	富樫委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-8-16ページの(4)予測結果の「掘削による土地の安定性の検討」において、掘削場所(ピット)及び深度等の計画条件は現段階で未定となっている。知事意見で「具体的な規模を把握した上で適切な予測評価を行うこと」としており、事業者の見解では「施設規模が決まったところで、具体的に地形改変への影響を予測・評価し、準備書に示す」とされているが、準備書においては現段階では未定ということで、具体性のない計画を4つ述べて、影響は軽微であるとされており、知事意見に対する見解と、準備書の記載に相違がある。 現段階で計画が決定していなくても、例えば掘削の場所や掘削深度などを全く記載されていないのは不適切なので、対応を検討願いたい。 	意見		(番号19に集約)	<ul style="list-style-type: none"> ・今の段階では詳細は決まっていますが、想定できる範囲で検証を加えたうえで、次回お示ししたいと思います。 【事後回答】 ・評価書において、予測の前提条件として想定される掘削の場所や掘削深度を示し、対策方法を加味したうえで定性的な予測・評価を行います。 なお、掘削深度はピット位置において最大(約15m)となると想定します。

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
23	地形・地質	富樫委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の地質調査は支持層の確認が目的であるため詳細は不明との見解だが、地すべり面の上部地盤に新施設を建設する場合、地すべりが動いたら支持層のあるなしに係わらず建物は壊れてしまう。地すべり面の存在が判明した時点で正確に究明すべきである。建設予定地は荷重をかければ最も危険な場所なので適切に対応する必要があるが、どのように考えているのか。 現在の施設は建設から数十年程度であり、今まで地すべり面が動かなくても、新施設の建設により全体の安全率が下がる計画のため、必要があれば調査やデータで安全性の根拠を示してほしい。 今出されている資料では、十分に安定しているから大丈夫だと考えられる客観的な根拠にはなっていない。 	意見		(番号19に集約)	<ul style="list-style-type: none"> 建設予定地の地層は1万年前のものであり、十分に安定しているという地質調査の結果が出ています。また、既存の岡谷市清掃工場所在地への建替計画であり、支持層までしっかりと支持杭を入れることによつて、問題は無いと考えています。 準備書4-8-4ページに、現地踏査等で新たな地表の亀裂等最近の動きは見られず、現在は地すべり全体としては十分安定しているという調査結果を示しています。改変はほとんど切土であり、盛土部分の建物は高さを低くして荷重をできるだけ分散する計画で、建物は主に切土の安定部分に建てることとなります。三十数mというボーリングを実施し、支持層の確認だけでなく、できる限り地質の特性を把握したつもりですが、今後も施工段階で必要となる追加の地質調査等について対応してまいります。 次回までに整理をして御説明させていただきます。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設地における土地の安定性(地すべり)について、別途資料(第3回審議 資料1-1)で提示します。
24	地形・地質	梅崎委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備書4-8-5ページの地形判読図に地すべりブロックの記載があるが、この規模であれば移動量を継続計測していると思われるので、降雨の状況、地下水位のデータと合わせて、根拠として示せばよいかと思う。 	意見		(番号19に集約)	<ul style="list-style-type: none"> 次回までに可能な範囲で調査し、御回答します。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動量等のデータは計測されていません。なお、地下水については、地質調査のボーリング掘削時における作業前後の孔内水位の記録により推定し、建設地の透水性は低いと考えておりますので、造成工事においては、地下水排除工など、十分な排水対策を実施します。
25	地形・地質	佐藤委員	<p>【第2回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> 建設予定地周辺では2006年の大雨により土砂災害が発生したが、当時のデータを調べれば、土盛をする地点の土壌の弱さ等がシミュレーション出来るのではないか。 	記録	審議のために必要な計画内容の確認等		<ul style="list-style-type: none"> 2006年の大雨の災害は土石流で表面のすべりであり、今回検証したい地すべり面の動きとは異なるデータになると思います。

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
26	植物	大窪委員	【第1回審議】 ・準備書4-9-6ページの植物群落について、代償植生が主ということだが、影響評価ということで、まとめとして自然性が低いのか高いのか、代償植生の中での位置づけなどを、植生の分布、各群落の調査結果に記載願いたい。	指摘事項		(番号1に趣旨を集約)	・植生の結果のまとめについては、委員の指摘のように追加させていただきます。
27	植物	大窪委員	【第1回審議】 ・準備書4-9-29ページに希少種であるギンランに対する措置が記載されており、生育地は改変しないので影響がないとのことだが、里山の林床に生育するギンランなどの植物は、そのままにしておくとは絶えてしまう。何もしなければよいという種ではないので、その管理についても考慮願いたい。	指摘事項		対象事業実施区域内に生育するギンランについて、事業による環境影響の予測・評価に加え、その生育環境を保全するための管理方法についても検討すること。	・ギンランについては、林床管理ということで生育環境保全を行う必要があるため、その保全方法及び記載については検討させていただきます。
28	動物	中村寛志委員	【第1回審議】 ・準備書4-10-43ページで夜間照明の対応策について、ナトリウムランプ等を採用とあるが、最近の防虫用のエコイエロー、黄色防蛾灯ということまで考えているのか。	記録	審議のために必要な計画内容の確認等		・最終的には事業者の判断となりますが、可能な限り昆虫の誘引が少ないランプの採用を検討するというところで、今のところは示しています。
29	動物	中村寛志委員	【第1回審議】 ・準備書4-10-45ページ表4-10-22の「適切な夜間照明の採用」における環境保全措置の種類が「低減」となっているが、夜間に光が漏れることを防ぎ影響を少なくするというものであり、「最小化」ではないか。	指摘事項		適切な夜間照明の採用については、環境保全措置の措置の種類を「低減」から「最小化」に改めること。	・ご指摘のとおり、実施規模又は程度を制限すること等により影響を最小化する措置ですので、低減から最小化に修正します。
30	動物	中村寛志委員	【第1回審議】 ・準備書4-10-36ページで絶滅危惧種のマエモンシデムシがボックスライトで採集されているが、ベイトで採れなかったのか。また、資料編の8-52ページで、シデムシ科はオオヒラタシデムシ、マエモンシデムシの2種類だけだが、もう少し採れてもよいのではないか。	記録	審議のために必要な計画内容の確認等		・マエモンシデムシはボックスライトで確認をしました。また、シデムシ科は2種類のみ確認となっています。

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
31	動物	中村雅彦 委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書の4-10-40ページの予測結果の動物相のところで、現地の地形等の状況が記載されているが、分かりにくいので説明してほしい。 ・動物相への騒音、振動の影響が少ないと予測しているが、根拠となるデータはあるのか。距離が離れているとか、斜面の陰になっているなどの状況から予測しているのか。 <p>【亀山委員長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この部分の文章は分かりにくいので、騒音、振動の項目での記載を引用するなどして、動物の項目にも記載したほうがよい。 	指摘事項		(番号1に趣旨を集約)	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域は、東側はやや斜面を下って道路がある環境になっており、北から西側に関しましては、斜面をやや登った形で道路になります。南側に関しては、夏季のボブスレーコースが配置されています。 ・騒音、振動の項目で予測結果はお示ししていますが、建設工事中においては、建設作業騒音を防止するため工事用仮囲いを設置し、できるだけ影響を軽減します。供用時に関しましては、新施設で防音関係の措置がとられますので、現況を超える影響はないと考えています。 ・ご指摘を踏まえ、評価書ではもう少し丁寧に説明します。
32	動物	中村雅彦 委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-10-45ページ的环境保全措置で、低騒音・低振動型の機械を使うということで工法は記載されているが、工期の記載がない。猛禽類の環境保全対策として工期のことも入れないと、鳥の研究をしている人からはクレームがあると思う。 	指摘事項		猛禽類について、事後調査において営巣が確認された場合の具体的な環境保全措置を、評価書に記載すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・繁殖期でなおかつ巣が近接している場合は、十分注意が必要だと思っています。現段階では細かい施工計画が立てられておりませんが、事後調査計画として猛禽類に関して施工中のモニタリングにより繁殖状況を確認し、営巣地が近接した場合は、コンディショニングにするのか、それとも施工の中断を含めた判断が必要となるだろうと考えております。
33	動物	陸委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-10-41ページのカモシカの影響予測で、対象事業区域内を工事中に利用しなくなるとの記載があるが、予測の根拠があれば教えてほしい。調査結果ではかなりカモシカが目撃されており、人慣れしているカモシカであれば工事中も利用し続ける可能性があるため、そうしたことを想定した対応、配慮も記載したほうがよい。 	指摘事項		カモシカに対する工事による影響の予測については、人慣れした個体が工事現場に近づく可能性も想定して行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な根拠はなく、一般的な状況として人や機械が動けば警戒して離れるだろうという記載です。人慣れして近づいてくるとなると別途対策が必要になるので、そうしたことを想定した記載を加えます。

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
34	生態系	中村寛志 委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-11-5ページの昆虫類指標種の選定で、捕食関係の上位の昆虫としてシダクロスズメバチを挙げていると思うが、オオヒラタシデムシはアーバンインディケーターとあって森林の割合を表す指標種になるので、このような指標種を選定する考え方もある。 <p>【第1回追加意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昆虫類の指標種として、オオムラサキのほうが国蝶で一般によく知られているのでよいと思う。オオムラサキはいろいろな書物にも良好な環境の残っている里山の指標種として紹介されているので、検討願いたい。 	意見		<p>国蝶であり一般的に認知度の高いオオムラサキを、生態系を特徴づける指標種に選定し、予測・評価を行うこと。</p>	<p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、オオムラサキを指標種（典型種）とし、評価書で対応します。（「生態」と「分布及び生息・確認状況」の情報は、準備書4-10-35のとおり）
35	生態系	中村雅彦 委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-11-3ページの生態系の模式図で、ニホンリスやムササビのような草食動物が二次消費者に含まれているので、一次消費者に訂正願いたい。また、アカネズミについても検討した方がよい。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンリスやムササビが二次消費者ということはないので、記載を修正いたします。
36	景観	亀山 委員長	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォトモンタージュによる予測について、知事意見において「やまびこ公園が景観触れ合い活動の場という観点で重要な場所であることを考慮し、また工事中も囲い等により配慮すること」とあるが、事業者の見解として「なお、景観について、現施設の視認状況及び周辺施設の利用期間から、調査・予測はやまびこ公園のみで行い、簡略化項目で行う」というのは、知事意見への対応としては違うのではないかと感じる。 ・フォトモンタージュについて、準備書4-12-12ページの建屋形状を前提に実施されているが、具体的な設計がされてなくても、条件を変えてモンタージュを作ることとは可能であり、景観については重要ということを知事意見で申し上げているので、十分に対応してほしい。また、実際に人が見るときは狭い視野で凝視するので、広角の写真ではなく、もう少し具体的に景観がイメージできるようなモンタージュを検討願いたい。 	意見		<p>フォトモンタージュによる予測・評価について、現時点で想定される外観等の条件により、実際に人が凝視する際の視野で行うなど、具体的に景観がイメージできるように実施すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では施設の形状等が決まっていないのでこういった表現になっていますが、できる範囲で色や形状等を調整したものを、改めて提示させていただきます。 <p>【事後回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外壁の色を変更したモンタージュを示したうえで、実際に人が見る視野を踏まえた評価を行います。（評価書対応）

No.	区分	委員名	意見要旨	取扱	摘要	意見等(案)	事業者の説明、見解等要旨
37	触れ合い活動の場	野見山委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用状況調査について、準備書4-13-1ページにどのような調査の内容を実施したのかについて記載願いたい。また、準備書4-13-4ページの調査結果について、パーセンテージだけでなく実数を記入した上で、定性的に丁寧に内容を記載したほうがよい。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果について、もう少しデータに即した書き方に評価書の段階では改めます。
38	触れ合い活動の場	陸委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-13-5ページの調査結果で、春期の男女の合計が100にならなかつたり、年齢構成の合計が100にならないのは記載のミスか。 ・準備書4-13-5ページの調査結果で、有効回答数の割合が聞き取り調査にしては少ないが、実数が分かれば示していただきたい。また、有効回答数と少なくなった理由を加えていただきたい。 	記録	記述内容に関する修正等		<ul style="list-style-type: none"> ・数値については確認して、次回お示しします。 【事後回答】 ・正しい数値に修正した資料を、別途資料(第2回審議資料1-6)で提示します。 ・有効回答数の数値は、パーセンテージではなくて実数になっています。
39	交通安全	野見山委員	<p>【第1回審議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備書4-16-1ページ交通安全において、調査範囲が県道檜川・岡谷線の対象事業区域から国道20号までの一部区間を対象にしているが、周辺には病院等の施設があるので、この区間に限定した理由を教えてください。 ・そうした根拠、数字を含めて調査範囲の選定理由について、評価書に記載していただきたい。 	指摘事項		(番号1に趣旨を集約)	<ul style="list-style-type: none"> ・塩嶺病院がある国道は一般の交通量が非常に多い所ですので、本事業に係る発生交通量の割合が高くなる、影響の大きい区間を調査範囲に選定させていただきました。 ・評価書に記載いたします。